

東葛しぜん観察会(第 54 回研修会)

オオハクチョウや冬鳥の観察会

坂巻 真有美 (白井市)

日 時： 2010 年 1 月 28 日 (木) 10~12 時

場 所： 清水口調整池 (白井市)

講 師： 和仁道大氏 (千葉県自然観察指導員協議会顧問)

担当指導員：青木稔 坂巻 真有美 参加者：指導員 13 名

前日の晴天がうそのような曇り空と風の中、講師に協議会の和仁さんをお迎えして研修会を行いました。風さえおさまれば、幾種類かの鳥の姿も見える所ですが、この日は、初めにコゲラやヒヨドリの鳴き声が聞こえるばかりでした。途中カラスが木にとまっていて、普段なら‘ああハシブトガラスだ’となにげなく見るだけですが、和仁さんが「ハシブトガラスはくちばしが太くてデコッパチ」と言って‘鳥はその特徴をつかんで覚える’ことを教えてくださいました。カラスは鳥の進化の中で割合後の方に位置する鳥であり、野鳥チェックリストがその進化の順番に並べられていることを初めて知りました。また道で何かをついばんでいるドバトをリストから搜そうとすると、「ドバトは伝書バトやカワラバトが野生化したもので、野鳥分類には入らない」という説明。

街路樹の立つ緑道を進んでゆくと、急に視野が開け、清水口調整池が見えてきます。池の周りは住宅街ですが、そこからは七次川が流れ出し神崎川へとつながり、その周りにはわずかな田んぼもあります。これらの環境の中で、調整池周辺では「住宅街の鳥」「水辺の鳥」「里山の鳥」たちを観察することができます。調整池を臨み、フィールドスコープでじっくりと水鳥の観察に入りました。ダイサギの黄色や黒のくちばし、コガモの目の周りのグリーン、オナガガモのくちばしの両サイドのメタリックブルー、カワウのエメラルドグリーンの目、キンクロハジロの金色の目。スコープで見る鳥たちはとても魅力的な姿をしていました。今年はコハクチョウを含め、多いときには 20 羽以上のハクチョウが池で泳ぎまわっています。オオハクチョウの特徴もフィールドスコープで見るとはつきり見え、くちばしの黄色い部分が広く鼻の穴のあたりまで来ていますが、反対にコハクチョウは黒い部分が広く、鼻の上の部分まで来ています。これは‘コハクチョウは黒い鼻筋が通っていてイケメン’というおもしろい考え方を教えていただきました。

今回の研修では鳥の生態や分類のみならず、「コガモは緑のサングラスに黄色のパンツ’‘キンクロハジロはパトカー’など、子どもたちにも分かりやすい識別のための特徴など‘鳥’を理解し観察するための様々なお話を聞くことができました。また指導員が身近なフィールドで鳥の観察をする際、記録をとり、公にしていくことの必要性や、ただ観察するだけでなく‘日々記録すること’‘日ごろ身近な鳥でも‘居ること’と‘居ないこと’を記録することの重要性を知りました。調整池の近くに住む自分にとって、鳥を見る楽しさを教えていただいたとても楽しい研修会でした。この研修会で学んだことを生かし、指導員として観察記録にチャレンジしてゆきたいと思いました。

[当日確認できた鳥]

カツツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ
オオハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ
ホシハジロ キンクロハジロ オオバン ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジ
ュウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス

[鳴き声のみ:コゲラ アオジ]

